

巻頭言「創価大学のグローバル教育について」

ワールド・ランゲージセンター長 田中亮平 ……1

経済学部の取り組み 碓井准教授……2

〔共通科目〕ラーニング・アウトカムズ細目決定……3

〔GCP〕GCP生の報告……4

〔WLC〕FDセミナー報告、新年度活動 ……5

〔CETL〕FDセミナー報告、他 ……6,7

第10回FDフォーラム報告、2013年度FDセミナー（年間計画）のお知らせ……8

SEED新任教員・職員紹介……8

## 創価大学のグローバル教育について

ワールド・ランゲージセンター長 田中亮平

### 創 価大学の考えるグローバル人材

創価大学は1971年の開学以来「世界の平和を守るフォートレスたれ」という建学の指針の達成を目指し、国際的なレベルでの学術・教育交流に力を注いできた。1999年、ワールド・ランゲージセンター(以下WLC)が発足し、授業の内外にわたる各種語学教育プログラムを提供するとともに、学生の地球市民意識の涵養に努めてきた。

2020年の創立50周年へ向けて策定されたグランドデザインでは、こうした歴史と成果を踏まえ、グローバル化の更なる進展を見越し、21世紀の国内外で時代の要請に即応できる人材の輩出を目指すことになった。そうした機運の中で、昨年秋、文部科学省の大型補助金事業である「グローバル人材育成推進事業」特色型に創価大学の取り組みが採択された。創価大学は2012年度から5年間で、本学が掲げる「グローバル人材」を毎年400名輩出することをめざすことになる。ここに掲げられた人材像とは、

- ①外国語運用能力、幅広い教養、深い専門性を身につけていること、
- ②海外修学体験を通して培った異文化理解力と、国際社会に積極的に関与する姿勢をそなえていること、
- ③本学の歴史と教育理念を「大学科目」を通して学び、共生の理念を培っていること

をその要件としている。そしてこの三つの素養は、それぞれ知恵・勇気・慈悲という創価大学ならではの人格的理念に対応している。

この基本コンセプトにもとづき、具体的な達成目標も掲げられ、なかでも留学生の増加と語学能力水準の引き上げが主眼となっている。留学生の増加はひとまずおいて、学生の語学能力水準の引き上げという点は、WLCの主たる任務でもあるので、なかでも現今の英語教育をめぐる環境の変化を見ながら、若干所見を述べさせていただきたい。

### 英語教育をめぐる環境変化ー「入試から英語が消える？」

変化を端的に示すものの一つが、昨年6月に発表された文部科学省の「大学改革実行プラン」で、そこに「入試におけるTOEFL、TOEICの活用促進」が掲げられている点である。すでに大学入試へのTOEFLスコア導入は進んでいるが、先ごろ発表された自民党の提言にも大学ごとに入試と卒業のスコア基準を規定することがうたわれている。先日参加した日本外国語教育推進機構(JACTFL)主催のシンポジウムでも、センター入試から英語をはずす可能性について言及されていた。このことは我が国の大学入試を到達点として組み立てられた英語教育の仕組みの改編につながる可能性を含んでいる。この仕組みが問題であるという指摘は、日本の英語教育が諸外国に比べなぜ非効率なのかという議論の際に、恒常的になされてきた点である。

各大学で英語の入試問題を作成したり、点検に当たっておられる先生方には、まるで「日本人が英語ができないのは大学入試のせいだ」というような言われ方は、心外きわ

まりない話であろう。その心情は十分忖度するとして、しかし試験官の担当などで入試問題を見る機会があるたびに、自分自身じつに窮屈な思いに襲われる実感がある。そこにある大原則は「間違いを犯さず設問通りに答える」というものだからである。英語とは間違いを犯さず正答通りに答えなければならないものだという、受動的な勉強方法を叩き込まれた受験生や大学生にとって、「間違ってもいいからどんどん使って上達しよう」というような学習方略や「英語はコミュニケーションのツールにすぎなくて、何を伝えるかの方がもっと大事だ」というようなメンタリティーは育ちにくい。極端に言えば「間違いのない完璧な英語を使えないものは、英語を使ってはならない」という強迫観念のようなものが、日本人の舌をこわばらせ、筆を止めさせてしまう恐れさえある。この弊害はひるがえってリスニングやリーディングなどの受容能力にも及んでいて、50カ国弱のアジア諸国のTOEFLスコア国際比較で、日本はほぼ例年、リーディングを含む全分野にわたって、最下位近辺の位置を占めている残念な事実も、つとに指摘されてきた。

### 英語で学ぶというコンセプト

「間違わないために使わない」ことより、「間違っても使っても上達すること」「美しい完璧な英語」より、「コミュニケーションのツールとしての英語をめざす」こと。これはWLCが取り組んできた基本方針である。それはイングリッシュフォーラムなどいくつもの課外プログラムやレベル別授業の導入、オールイングリッシュ授業の標準化などに具体化されてきた。その上で今回の補助金をうけたWLCの中核的業務として、①英語圏への留学を目指す学生をサポートする、全学横断型の1年生対象週4コマの英語集中選抜プログラム(ESA)と、②就業力向上を英語の面からサポートするための、やはり全学横断型2・3年生対象週4コマの英語集中プログラム(ECD)を推進していく。いずれも学術的使用とビジネスシーンでの使用を想定した、「ツールとしての英語」の力を養成するプログラムである。

これと並んで、「英語を学ぶ」のではなく、「英語で学ぶ」というコンセプトのもとに、各学部と連携して展開してきた専門科目を学ぶ英語科目(略称ESP科目)群を充実・発展させていく。経済学部のIPを筆頭に、それらは英語のスキルと大学での学びを統合した、学術的レベルでの「使える英語力」を養成する試みである。これまでその効果が認められ、経営学部のGFP、法学部のPHFなど、他の学部への発展・定着が見られたが、今回の事業を受けて一層の充実をはかっていくことになる。

創価大学ならではの資質と実力を備えたグローバル人材輩出のためにWLCは今後も挑戦とイノベーションを絶やさずに進んでいきたい。

学部での取り組み紹介

# 経済学部の学生における就業力を高める取り組み

経済学部 准教授 碓井健寛

## 経済学部の就業力向上の取り組み

■経済学部の個別学習マップ (My Map) を導入して2セメスターが経過した。学生たちは4年間計画表やタイムマネージメントによって目標や取り組みを「見える化」してきた。本学部の、学生の就業力の育成という目標の中で、My Map作成がその1つの取り組みとして位置づけられている。しかし就業力の育成には、科目群の配置変更だけでは十分と言えず、学習者の視点に立った工夫が不可欠である。そこで経済学部ではMy Mapを導入することにした。

■My Mapについて解説してみよう。図1、2はMy Mapのモデルで、実際に学生が作成している(名前と学籍番号のみ架空)。図1では、目標としてゼミでの研究テーマ、語学、学生生活で体験してみたいことを記述する。また、その下に就業力測定テスト

た(2013年4月上旬にアンケート実施)。目立った意見は、My Mapが自分の目標や夢を考えるきっかけになったというものである。例えば「大学生生活は4年間と長いようですがその時々でやらなければならないことがあり時間はあっという間に過ぎてしまいます。そのようになる前にどの時期にこれをやるのか、というのを決めておくの中で整理がついて大学生活に充実を感じられます。この時期に何をするのかを決めることで、ただ時間だけが過ぎていってしまうのではないかと不安が解消されました」という声もあった。就業力テストで出てきた自分の長所や短所を評価した上で、履修選択をしているという意見も見逃せない。例えば「履修を考える前にMy Map作成が必要になり、授業一つずつがどんな力を伸ばすのに役立つか、力を伸ばすためにどの授業を取れば良いかを考えることができるので良かった」という声もあった。

図1 MY MAP2 ワークシート①

学籍番号	3	1	4	1	5	9	2	MY MAP 計画期間	2年次春休 3年次前期	希望進路	第1希望	企業就職
氏名	創 価 太 郎									第2希望	公務員	
興味・関心から、自身の学習・学生生活について考えよう												
ゼミ研究内容・専門科目 【経済学部の学び参照】								学生生活で体験してみたいこと 【キャリアデザインブック参照】				
専門(ゼミ・専門科目) 興味・関心があるテーマ				語学				(例)△△でのインターンシップ、○○でのボランティア活動、××でのアルバイト、進路2級の取得、TOEICスコア800点以上の取得、△△△への留学、クラブ活動で全国大会出場、成績優秀となる、など				
鉄道、インフラ				英語 TOEIC				簿記2級 TOEIC540点 旅行管理業務者検定取得 クラブで優勝				
就業力測定テストの結果をもとに、伸ばすべき力について考えてみよう												
【就業力測定テスト】の結果をもとに、自分の強みと弱みを書き出してみよう。MYMAPに反映してもしません。						強みを伸ばしたり、弱みを克服するために、取り組みが必要があることを書き出してみよう。その際、「カリキュラムマップ(Web)」と【就業力の強化書】を参考にしてください。						
強み			強み			履修・ゼミ活動など学習テーマから			課外活動・AWAY体験から			
・論理的思考力			・対人基礎力			・対人基礎力→ゼミなどで交友関係広げる			・論理的思考力→部活動で論文を作る			
・数量的分析力			・討議推進力			・討議推進力→ゼミと、履修のグループ学習で進めていく						
・課題設定力			・自己育成力			・数量的分析力→数学系の授業をとる						

ト(就業力をはかる客観テスト)を基礎に伸ばすべき力を記述する。図2では学部の学び、課外活動について優先順位を自分で設定した上で、目標と活動内容を記述する。これにより就業力向上に対応する学びと、目標、行動計画の全てが「見える化」できる。言い換えると、学習者自らが設定した目標に対して、必要な科目を取得していくという過程を通じて、「学習者の主体的な学び」が実現できる<sup>1)</sup>。本稿では個別学習マップ(My Map)にフォーカスし、My Mapを使用した1年間の振り返りを学生自身に行ってもらった。

1) 創価大学経済学部「学問・世界・仕事へのリンクが育む就業力-専門教育と就業力をつなげるカリキュラムならびに個別学習マップの構築-」[http://keizai.soka.ac.jp/GP\\_2010.html](http://keizai.soka.ac.jp/GP_2010.html)

## My Mapを活用した学生の声

■碓井ゼミに所属する3年生17名全員に、第3・4セメスターにMy Mapを使用した感想を記述してもらっ

客観的に自分を見つめるだけでなく、My Mapを通じて行動に移せるという意見は重要である。従来は、大学4年間の計画表を作成しているが、セメスターごとに自分の目標への到達をチェックするというような取り組みはなかった。例えば「(タイムスケジュールと目標を明確にできたため)インターンシップに行けたことです。後は秘書検定を受けることができました。My Mapを書かなければ考える時間をあまり作れなかったと思うので、行動に移せなかったと思います」という意見から、目標・取り組みを日々の生活のタイムスケジュールに落とし込んでいることがうかがえる。

■使い方に関する今後の課題も見えてきた。例えば「いろいろ書いてみたものの、達成できなかったことが結構あった。詰めの甘い漠然とした目標は倒れがちだった」という意見があった。失敗からの気づきも重要な学び

のひとつである。目標設定だけでなく、進捗状況に関してもピアレビューの要素を取り入れることが良いという意見もあった。個人でMy Mapを使う場合は、a) My Mapはコピーし見えるところに貼る b) 達成するためのタイムスケジュールを作る c) 月に1度は振り返るという提案もあった。

図2 MY MAP2 ワークシート②

目標設定	2年次春休み / 3年次前期						目標の優先度
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
1 セミ活動	論文の準備		実際に書き出す				3
2 語学力	週1時間英語		週6時間英語		TOEIC		4
3 履修			19単位 大学科目2、英語1、数学2、ゼミ2、経済学部10、心理学2 GPA4.0				1
4 数理			数学系授業2単位 目標S				6
5 部活	春JDA		新歓		新人職支援 高校応援		2
6 旅			候補地リサーチ		最終案作成		5

上記の目標を達成するために、どのような点に留意すればよいと思いますか。書き出してみよう。

定期的な反省と修正

共通科目

# 共通科目ラーニング・アウトカムズの細目（例示）決定と展開

副機構長 西浦 昭雄

これまで数回にわたって共通科目ラーニング・アウトカムズ(LOs)の展開について紹介してきましたが、2012年度後期に大きな節目がありました。2012年10月の学士課程教育機構運営委員会において、担当授業の到達目標と共通科目LOsの関係を考える際の参考にできるように共通科目LOsの細目（例示）が決定されました。さらに英語訳についても併せて決定をみました（表参照）。

また、2011年度より約50の共通科目がパイロット授業としてLOsや到達目標の達成状況を測定する試みをしてきました。2013年度よりこれを発展させ、共通科目全講義（科目表ベース）が3年以内に少なくとも一度は実施し、「授業の『到達目標』に関する自己評価報告書」を提出することになりました。

表 ラーニング・アウトカムズ (LOs) の細目（例示）と英訳について

LOs項目	LOs細目（例示）
1. 人文・社会・自然科学、健康科学領域の基礎知識を理解する。 Students will learn basic knowledge in the area of humanities, social sciences, natural sciences, and/or health sciences.	各科目に応じる。
2. 多面的かつ論理的に思考する。 Students are able to think critically and reason logically.	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一つの事象を多面的に考察することができる。Students will examine issues/problems from multiple perspectives.</li> <li>●問題・課題の本質を推察できる。Students will examine core social/political/global issues.</li> <li>●定量的または定性的な根拠にもとづき、論理的に思考できる。Students will learn to reach a conclusion based on qualitative and quantitative evidence.</li> </ul>
3. 問題解決に必要な知識・情報を適切な手段を用いて入手し、活用する。 Students are able to gather and use necessary information to solve problems using appropriate methods.	<ul style="list-style-type: none"> <li>●倫理や法律を守り、知識・情報を収集できる。Students will gather information legally and ethically.</li> <li>●適切な知識・情報を、問題解決のために有効活用できる。Students will be able to effectively utilize knowledge and information for problem solving.</li> </ul>
4. 日本語による多様な表現方法を習得し、明瞭に論じ述べる。 Students are able to clearly express Japanese language in various ways.	<ul style="list-style-type: none"> <li>●論述文において、文章作成の基礎作法に基づき、論点が明らかな文章を作成することができる。Students will learn to write clearly and logically based on basic rules.</li> <li>●プレゼンテーションにおいて、明確に論点を伝えることができる。Students will learn to deliver presentations clearly and concisely.</li> <li>●討議において、他者の見解の考察を踏まえ、自身の見解を伝えることができる。In discussion, students will learn to clearly communicate their opinions/perspectives with consideration for others.</li> </ul>
5. 英語と母語以外の他外国語でコミュニケーションを図る。 Students are able to communicate in English and other foreign language (other than their first language).	<ul style="list-style-type: none"> <li>●表現に必要な基本的な語彙を知っている。Students will learn basic vocabulary necessary to express themselves at their appropriate level.</li> <li>●基本的な文法を理解している。Students will learn grammar necessary to express themselves at their appropriate level.</li> <li>●コミュニケーションのための基礎的な技能を身につけている。Student will learn communication skills necessary to express themselves at their appropriate level.</li> </ul>
6. 学びの意味や社会的責務を考え、自らの目標を設定し、自立（律）的に学ぶ。 Students are able to learn independently by setting their own goals. Students will be responsible for their own learning and understand the importance of learning.	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「何のために学ぶのか」との問いかけに、自分なりの考えや意見をもっている。Students will understand the importance of learning.</li> <li>●目標を設定し、計画的に学習することができる。Students will effectively manage their time to achieve their learning objectives.</li> <li>●主体性をもって課題を発見し、学習することができる。Students will learn independently by considering problems.</li> </ul>
7. 自他の文化・伝統を理解し、その差異を尊重する。 Students are able to understand their own and others' culture and traditions. Students will learn to respect others' culture and traditions.	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自らの文化や考えを他者にわかりやすく伝えることができる。Students will learn to communicate their culture and ideas to others.</li> <li>●自分とは異なる立場や属性をもった人と議論ができる。Students will learn to have discussions with people from different backgrounds.</li> <li>●他者の意見を傾聴し、その文化や伝統から学ぼうとする姿勢がある。Students will learn about others' culture and traditions.</li> </ul>
8. 人類の幸福と平和を考え、自己の判断基準をもつ。 Students are able to develop their own criteria to think about human happiness.	<ul style="list-style-type: none"> <li>●世界の平和など人類の課題について関心を持ち、学ぼうとしている。Students will develop interest and concern about global problems such as world peace.</li> <li>●自分の立場や考えを、説得力を持って述べるることができる。Students will learn to express well-grounded arguments about their ideas and positions.</li> </ul>

## 地球市民を目指すGCP生の挑戦

看護学部 准教授 佐々木 諭

2010年4月より開始したグローバル・シティズンシップ・プログラム（GCP）は、本年4年目を迎え、4月には4期生34名が選抜された。今年度は、プログラム開始以来はじめて4年生から1年生までの全学年が揃うことになり、いわゆるGCPの完成年度にあたる。

GCPは、地球市民として活躍するグローバルリーダーを育成することを目的として、徹底した英語コミュニケーション力の強化と論理的思考力、問題解決力などのアカデミックスキルと数理的処理能力の向上を図る授業科目を提供している。

入学後の2年間の集中プログラムを修了した1期生と2期生は、9割の学生がTOEIC800点、TOEFL IPT550点以上を取得し、32名がTOEIC900点相当（TOEFL ITP、TOEFL iBTを含む）の点数に達した。また、1期生は32名中20名、2期生は27名中21名が、米国をはじめ、オーストラリア、フランス、中国、ケニアなど19カ国の大学への交換留学生に選抜された。

あわせて、GCP生は、GCPの授業を通して修得した英語コミュニケーション力、ディスカッション力、プレゼンテーション力を活かし、学外のセミナーやフォーラムにも積極的に参加し、地球市民としての学びの場とネットワークを世界に広げている。ここでは、2012年末から2013年3月までの間にGCP生が選抜され参加した「日露学生フォーラム」、「国際開発ユースフォーラム」と「日本アフリカ学生サミット」について紹介したい。

GCP 2期生の平野光城さん（経済学部3年）は、2012年12月に外務省が支援する日露青年交流事業の一つである「日露学生フォーラム」に、日本学生代表30名の1人として参加した。「日露学生フォーラム」は、日本とロシアのそれぞれの学生代表が、今後の両国の友好と発展について意見を交わす学生会議であり、2012年はロシアのモスクワ大学において5日間にわたり開催された。平野さんは、日露両国の学生に対し、日露の文化交流の重要性について英語でプレゼンテーションを行い、日露の学生との交流を深めあった。

3月に1週間にわたり東京で開催された「国際開発ユースフォーラム」には、GCP 2期生の山下葉月さん（経済学部3年）、岩城貴子さん（経済学部3年）、小山保奈美さん（文学部3年）

の3名が日本代表として参加した。全世界から470人を超える応募者があり、英語書類審査、英語面接を経て、GCP生3名が選抜に合格した。「国際開発ユースフォーラム」は、17名の日本代表学生を含む45名の全世界からの代表が参加し、開発の課題を議論し、ミレニウム開発目標後の目指すべき指標に関し青年としての提言をまとめることに取り組んだ。

フォーラムの分科会セッションでは、「教育」、「環境」、「ガバナンス」、「ビジネス」、「紛争」の5つのテーマに分かれ、主に途上国が直面する問題について議論を行い、最終日には学生の視点からの解決策を発表した。教育分科会に参加した山下さんは、これからの開発に求められる新たな価値観として「公正・正義」、「生活の質」、「持続可能性」を考慮しつつ議論をすすめ、既存の教育システムの中で子供たちに質の良い「学び」をいかに提供していくかに関する提言を取りまとめた。「GCPにおいて修得した論理的思考力、問題解決力を活かし、世界の学生と有意義なディスカッションを行うことができました」と語っている。

同じく3月に11日間にわたり日本で開催された「日本アフリカ学生サミット」には、GCP 2期生の阿部未怜さん（法学部3年）、北條美沙さん（経済学部3年）、若井美咲さん（教育学部3年）の3名が参加した。サミットの目的は、6月に開催されるTICAD Vに向け、これからの世界を担う青年の提言を発信することであり、「平和と安定」、「経済開発」、「社会開発」のテーマのもと分科会が開催された。サミットには35人のアフリカ人と47人の日本人が参加した。

社会開発の分科会では、岩手県釜石市の被災地を訪れ、被災地の復興についてアフリカの学生らと議論を繰り広げた。分科会に参加した若井さんは今夏ナイロビ大学への交換留学が決定している。若井さんは「留学前にサミットに参加し、母国への発展に貢献するため真摯に学ぶ優秀なアフリカ人と触れ合い、アフリカの将来の希望を見た思いがしました。これから先、サミットに参加した創大生としての誇りを胸に日々の勉学に全力で取り組んでまいります」と決意を深めていた。

今後もGCP生は、学内での研鑽を活かし、地球市民としてのグローバルリーダーを目指し挑戦を続けていくことが期待される。



世界の学生と議論する山下葉月さん（中央）



左よりサミットに参加した北條美沙さん、阿部未怜さん、若井美咲さん

## 2012年度 WLC主催のFDセミナー紹介

### 1. 『第2言語習得における最新の話題：ブレンデッド学習体験』開催

講師 ■ スコット・ソーンブリー(ニュー・スクール大学准教授、ニューヨーク)

2012年10月17日、『第2言語習得における最新の話題：ブレンデッド学習体験』を開催した。このセミナーの目的はブレンデッド学習のアプローチについて情報を提供することにあつた。ブレンデッド学習は多様な学習状況の下で利用されるようになってきているが、今回のセッションで焦点としたのは、オンライン学習と対面授業のブレンドというテーマであつた。

参加者にはセミナーの前にサイト (<http://itdi.pro>) 上の第2言語習得の理論と実践に関するインタラクティブなレッスンを受けてもらった。サイトのITDI (International Teacher Development Institute) は、教員に教育力向上のためのサービスを提供しているオンラインプログラムで、このレッスンには二つの目的があつた。ひとつには言語学習理論の初



歩的な概念を紹介し、その知識を踏まえて対面授業をプランニングすることができるようになること。二つ目には、ブレンデッド学習が、レッスンプラン、宿題、EFL・ESLカリキュラムなどにどう取り入れられるか、そのデモンストレーションをすることであつた。

プレゼンター略歴：  
スコット・ソーンブリーは30年以上にわたり、エジプト、イギリス、スペイン、ニュージーランドなどで英語教師と教員養成を経験し、現在ニューヨークのニュー・スクール大学で英語学の准教授を務める。またITDI教員向上プログラムを主宰している。

ソーンブリー准教授(上記の略歴を参照)は第2言語習得におけるいくつかの主要理論を説明し、教室での実践にどう適応できるかを紹介した。さらにオンライン学習がどう授業を向上できるか、デモンストレーションが行われ、参加教員にとっては担当する授業の改善を考える良いきっかけとなつた。

### 2. 『教員、職員及び大学機関の協働の促進』開催

講師 ■ リッチモンド ストゥール教授・福田衣里助教

2012年11月14日、第3回目となる、大学全体に向けたWLC主催のFDセミナーが開催された。このセッションは、「協働」をテーマにしたもので、教員、職員及び大学機関において、協働することで得られる利益や強みについての見識を提供するものであつた。協働の成功要因と妨げの要因をあきらかにした上で、協働に関する研究書と、発表者の2人による研究プロジェクトが紹介された。

ストゥール教授によれば、効果的な協働のためには「最低でも2人以上



の同等な立場にいる関係者(教員)が同じ目標に向かって、教育活動や判断基準を共有して行く必要がある。また協働には学部全体、大学全体といった幅広い関係者を含めて考えることができる、という点が指摘された。次に福田助教からは各学部長を含め、50名以上の教職員が関わった協働に関する調査プロジェクトの紹介があつた。

セミナー第2部では、ワークショップを通して、協働によって起こるさまざまな利点、マイナス点について議論した。

## 2013年度前期のおもな活動予定

### ▶セルフアクセスプログラム◀

◆4月5日(金)・8日(月)～12日(金)

Open House (施設見学期間)

10:30-17:00

Chit Chat Club/ WLC Loungeにて

◆4月8日(月)

English Consultation Room (英語学習相談)開始

◆4月15日(月)

Chit Chat Club (初級英会話)開始

English Forum (英語ディスカッション) 開始

Global Village (多言語・多文化交流) 開始

Writing Center (英作文指導) 開始

◆5月7日(火)

iBT Speaking Center

(iBT Speaking練習プログラム) 開始

◆7月下旬(期末試験終わり頃から6日間の予定)

夏期TOEFL/TOEICインテンシブ講座(仮)

## ■ 2012年度 後期 学習セミナー

2012年度後期、CETLでは、マインドマップ講座、文章力アップ講座、思考力アップ講座など、6つのジャンル（講座）33タイトルのセミナーを実施しました。合計132回のセミナーに、のべ222名の学生が参加しました。前期のセミナーと合わせると、1年間で全200回、のべ406名の学生が参加しました。

参加者からは、「レポートの構成が自分で理解できたので、教室で実践してみたい」（文章力アップ講座の「レポートの書き方」参加者）、「引用の仕方がわかって良かった。他のセミナーにも参加してみたい」（文章力アップ講座の「引用の仕方」参加者）、「ゼミのプレゼンで、今回学んだことを発表して皆と共有したい」（対人関係力アップ講座の「モチベーションを上げる力」参加者）など、多くの高い評価を受けました。

また、学習セミナーだけでなく、一人ひとり個別に対応する各種サービスをたくさんの学生が利用しました。「数学チュータリ

ング」にのべ72名（前期102名）、「学習相談」にのべ30名（前期55名）、「レポート診断」にのべ9名（前期195名）、そして、後期から新たに開始した「レポートチュータリング」に3名の学生が参加しました。

なお、2013年度は後期のラーニング・ commonsの運用を睨んで、学生一人ひとりのニーズに合わせて、きめ細かな指導・相談ができるように「レポートチュータリング」（下記参照）を拡充します。また、学習セミナーについても内容を精選し、より多くの学生に利用してもらえるようにします。就業力育成にも有益ですので、3,4年生を指導されている先生におかれましては、ぜひ学生にご周知をお願いします。

### 参加者の期待度・実用度

### 期待度

### 実用度

全セミナーの平均値  
(4段階評価、MAX 4/MIN 1)

3.5

3.6

## ◆ レポートチュータリングとレポート診断 ◆

2012年度は、前・後期合わせて200通のレポート診断を行いました。内訳は、Webレポート18通、持ち込みレポート27通、そして、ASTAC（「微生物学」「教育学部基礎ゼミ」「共通総合演習」の4科目、すべて前期）によるレポート診断155通でした。

他方、10月15日より、新サービスとして「レポートチュータリング」を開始しました。レポート診断は、書き上げたレポートを診断するサービスですが、レポートチュータリングは「レポート課題が出たけど、何から手をつければよいかわからない」「書いたレポートを見てもらって直接アドバイスがほしい」などの要望

に対して、「文章表現法」を担当する教員と一対一で相談できる予約制サービスです。レポートチュータリングの目的は、学生からの相談に対しアドバイスをしながら、学生自身が自分の力でレポートを作成していけるようサポートすることです。

2013年度は、レポート診断だけでなく、レポートチュータリングを多くの学生が利用できるよう、さまざまな授業を通じて、また掲示板やポータルサイトでもアピールを行い、学生への利用を呼び掛けていきます。

## ■ スーパーオアシス報告

3月7日～9日、CETLでは、学習意欲の低下や生活管理の問題などで、成績が長期低迷している学生を対象に「スーパーオアシス」という宿泊型短期集中研修を行いました。本研修は、学外施設「高尾の森わくわくビレッジ」にて研修を行い、当該学生の学習意欲や自己管理の向上を目的とする2泊3日のプログラムを試行したものです。今回は、対象学生3名を含む10名の学生とスタッフ5名が参加しました。

本プログラムは、プロジェクト・アドベンチャーという体を動かし感じる活動と、言葉を使い考える活動から構成されています。両者を組み合わせ、学生の自己変容を促し、課題解決の

ための力を涵養しました。

参加学生は課題に気づき、それを解決する実感を得たようです。また学部・学年をこえた活動により、信頼関係も築けたようです。今後も、当該学生を継続支援していきます。



## <2013年度 教育・学習活動支援センター員>

センター長 関田一彦（教育学部）	副センター長 望月雅光（経営学部）			
センター員 碓井健寛（経済学部）	近貞美津子（経済学部）	松田佳久（法学部）	須藤悦安（法学部）	藤本和子（文学部）
村上信明（文学部）	中村みゆき（経営学部）	舟生日出男（教育学部）	足立広美（教育学部）	川井秀樹（工学部）
井田旬一（工学部）	山崎めぐみ（SEED）	清水強志（SEED）		

## ■ 2012年度後期 FDセミナーを開催

### ◆第6回FDセミナー 講師：松本美奈氏（読売新聞社）

10月26日（金）、全国の大学における教育力の調査・取材に取り組まれている、読売新聞社 教育ルネサンス取材班・松本美奈氏を講師にお迎えし、第6回FDセミナーを開催致しました。「大学の實力」調査を通して見えてきた、現在の大学が抱える課題や取り組みの実例をご紹介して頂き、学生の可能性を引き出す「輝く實力大学」への方向性について、改めて深く考える機会となりました。

45名を超える参加者からは、「實力のある大学の共通点がよく理解できた」、「学生一人一人の可能性を見つめて、そこから戦略



松本美奈氏（読売新聞社）



田村友一氏（明星大学）

を立てることの重要性がよく分かった」等の声が多数寄せられました。

### ◆FDセミナー 講師：Serge Talbot氏（ラバル大学）

11月17日（土）、カナダ（ケベック州）のラバル大学から Dr. Serge Talbot 氏（General Director of Undergraduate Program）を講師としてお迎えし、英語による“The Pleasure of Making Learning Happen”ワークショップを開催致しました。

教員・院生を含め20名が参加し、学部・立場を超えた交流を持つことができました。また、ラーニングスタイル、学習環境、協働学習の活動、リソースを意識した授業改善の方法をハンズオンで体験し、これからの授業設計に役立てることのできるワークショップとなりました。

### ◆第8回FDセミナー 講師：田村友一氏（明星大学）

1月25日（金）、明星大学 学生相談室にて専門相談員をされている田村友一氏を講師にお迎えし、第8回FDセミナーを開催致しました。統合失調症やうつ病、発達障害を抱える学生への対応例や、大学全体が連携して学生を援助する必要性についてご講演いただきました。

20名の参加者からは、「現在、大学で仕事をする上で、無視・無関心ではいられない問題。資料も講演も大変分かりやすく、よく理解できた」、「実践的な話が多く、とても参考になった」等の声が多数寄せられました。

## ■ 2～3月 CETL主催 教職員研修を各種開催

### ◆2/28 マインドマップ講習会を開催

2月28日（木）10:00～17:00、上田 誠司 氏（ブザン公認マインドマップインストラクター）を講師に迎え、マインドマップ講習会を開催しました。構造的な思考を支えるツールであるマインドマップの描き方やその活用例について学び、17名の参加者からは、「パワフルで脳を刺激される充実した講習だった」、「授業で活用して、学生にも学びのツールとして使ってもらいたい」等の声が多数寄せられました。



上田誠司氏  
（マインドマップインストラクター）



杉本薫氏  
（米国NLP協会認定NLPトレーナー）

### ◆3/1 コーチングのためのコミュニケーション講座を開催

3月1日（金）10:00～17:00、「コーチングのためのコミュニケーション講座」(講師：杉本薫 氏（米国NLP協会認定NLPトレーナー、CETL特別センター員）)を開催し、学生指導や懇談に役立つコーチングスキルについて研修しました。10名の参加者からは「コミュニケーションのあり方の理解が深まった」、「学生との関わり方を学ぶことができたと同時に、自分自身を見つめ直すこともできた」等の声が寄せられました。

### ◆2/26～3/19 NLP入門講座（全4回）を開催

毎学期、学生指導に役立つコーチングスキルを磨くコミュニケーション講座を開催していますが、1日の集中講座ではカバーしきれない内容も多く、学んだスキルの練習時間も限られていました。そこで、2月26日・3月5・12・19日（13:00～17:30）に「NLP入門講座」(講師：杉本 薫 氏)を開講し、NLPと呼ばれるカウンセリング技法のいくつかをしっかりと学びました。6名の教職員が参加され、「多様性に富んだ学生への対応ができるよう、このような研修でスキルを身に付けることが非常に大切だと感じた」、「NLPの本を読むだけでは分からないものが、今回のワークやエクササイズを通して実感し、理解できた」等の感想が寄せられました。

## 2012年度 創価大学「第10回FDフォーラム」を開催

12月15日(土)、本学大教室棟にて「第10回創価大学FDフォーラム」を開催しました(後援:大学コンソーシアム八王子)。今回のフォーラムは、文部科学省「グローバル人材育成推進事業」(特色型)の採択記念として、「グローバル化時代の大学教育」をテーマに開催し、学内外より、大学関係者や学生など120名を超える方が参加しました。

第1部では、桜美林大学大学院・大学アドミニストレーション研究科の山本眞一教授を講師に迎え、「大学教育の質保証—諸変化への対応のために」と題した記念講演を行っていただきました。山本教授は、1990年代以降を中心にした大学改革の変遷を踏まえ、現在、大学は体質変革を求められている時代に突入していると論及。大学教育の質保証により、グローバル化に対応した人材や専門性と汎用性を具備した人材を育成し、知識社会の中でより大きな役割を担う大学への転換が求められていると語られました。

第2部では、まず、小出稔国際部長が本学のグローバル人材育成推進事業に関する趣旨説明を行い、続いて、経済学部・勤坂純市教授による「経済学部・JASプログラムの取り組み」について

の事例報告とWLC(ワールドランゲージセンター)・橋本信一講師による「WLC×工学部・専門英語の取り組み」についての事例報告が行われました。

参加者からは、「(記念講演では)大学を取り巻く諸変化を知ることができ、大変参考になった。学生が自発的に学びたいようになるような教育の質を向上させる学習内容や取り組みを真剣に考えていきたい」、「2つの事例報告での取り組みは、非常に具体的で参考になった。共に挑戦していこうと思った素晴らしい報告で、そのプ

ロセスや試行錯誤を共有でき、非常に有意義なフォーラムだった」、「創価大学のグローバルな実践力に感心し、その取り組みと説得力には脱帽した。今後の目標にしたい」などの声が寄せられました。



山本眞一教授(桜美林大学大学院)

Info

## 2013年度学士課程教育機構FDセミナーのお知らせ

2013年度のFDセミナーおよび第11回FDフォーラムは、以下の日程・内容で行われます。参加を希望される方は、お名前・所属・連絡先(電話番号・メールアドレス)をご明記の上、学士課程教育機構事務局(seedfd@soka.ac.jp)までお知らせください。学外からの参加も歓迎致します。

### FDセミナー

日程	テーマ	講師	外部公開
第1回 4月26日(金)	認証評価と質保証	鈴木典比古(大学基準協会専務理事)	有
第2回 6月14日(金)	SPACEの学習支援計画: ラーニングコモンズとピアサポート	山崎めぐみ(SEED)	有
第3回 7月20日(土)	ポートフォリオ評価の工夫 (3時間ワークショップ)	関田一彦(CETLセンター長、教育学部)	有
第4回 10月4日(金)	なぜ河合塾はアクティブラーニングにこだわるのか	谷口哲也(河合塾教育研究部長)	有
第5回 11月8日(金)	アクティブラーニングと学習共同体	杉原真晃(山形大学准教授)	有
第6回 2月下旬	大学間連携共同教育推進事業の活用(予定)	望月雅光(CETL副センター長、経営学部) (予定)	有

### 創価大学 第11回FDフォーラム

12月14日(土)	アクティブラーニングの効用と課題(2部構成)	濱名篤(関西国際大学学長)	有
-----------	------------------------	---------------	---

### 学士課程教育機構(SEED)の新任教職員紹介

<b>■教員</b> 教授 小山内 優(SEED) 講師 ロバート・ケラス(WLC) 助教 コリヤ・ディチャチェヴァ(WLC) 助教 嶋田みのり(CETL)	教授 小倉裕兒(SEED) 助教 大谷将史(WLC) 助教 高橋有紀(WLC)	講師 マルコム・ブレンティス(WLC) 助教 小川悠紀(WLC) 助教 大島 光(CETL)
<b>■職員</b> 副課長 賀佐見達雄(SEED事務局) 伊藤真美子(WLC) 佐藤葵(大学間連携担当)	長岡良子(SEED事務局 グローバル人材担当) WLCマネージャー アンディ・チョング(WLC) 根間あゆみ(大学間連携担当)	



創価大学

創価大学学士課程教育機構ニュースレター [SEED] 第5号  
 発行日 2013年5月10日  
 発行者 創価大学学士課程教育機構  
 〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236  
<http://seed.soka.ac.jp/>



NEWS LETTER SEED